

Inter×cross
Creative
Center

Inter×cross Creative Center

二十二年(二)五
促進事業
活用補助金

活用事例集

[2014年度]

発行

インタークロス・クリエイティブ・センター
一般財団法人さっぽろ産業振興財団

〒003-0005

札幌市白石区東札幌5条1丁目1番1号

TEL. 011-817-8911 FAX. 011-817-8912 E-mail info@icc-jp.com

URL <http://www.icc-jp.com>

目次

はじめに	2
実施内容	3 - 5
コンテンツ活用事例	6 - 14
札幌発スキンケア製品のブランディングおよび販促ツールの開発	7 - 8
株式会社 Savon de Siesta × クリエイター 株式会社ノイエカ / drop around	
鈴木農園の無農薬米ファン拡大作戦	9 - 10
鈴木農園 × クリエイター 合同会社こたら	
オリジナル販促ツールの開発	11 - 12
株式会社 HandMade × クリエイター 株式会社アジアン・スマイルコム	
北海道発オリジナル小豆ブランドの商品および販促 PR ツールの開発	13 - 14
株式会社もりもと × クリエイター デザインアドミニストレーター引地幸生 キタイトデザイン Commercial Studio Platinum	

はじめに

I ICC（インタークロス・クリエイティブ・センター）について

2001年、インタークロス・クリエイティブ・センター(ICC)は、コンテンツ系クリエイターのインキュベーション施設として、全国に先駆け産業振興の目的で設置されました。全国各地からも高い注目を浴び、このICCを参考に活動する地域も出てきました。

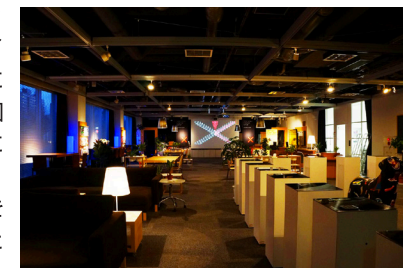
特にICCでは、IPビジネス(著作権ビジネス)を中心に置いたコンテンツ制作をメインの産業ととらえ、映像・音楽のクリエイターのみならず、登山家、料理関係、メイクアップ等まで様々なクリエイティブ分野のコンテンツを範疇に、ユニークな人材を育成・輩出してきました。

12年間に輩出したクリエイターは64組、その他ICCの施設に関連したプロジェクトも入ると72組の創造的活動がここから発信されてきました。

3年間のインキュベーション期間を経て、世界中へ飛び出しているICCクリエイターたちは、ICCの遺伝子を携え様々な創造活動を行っています。新しいICCは、この素晴らしいクリエイターたちはもとより、多くのアイデアをもった人たちがさらに集まり、価値あるアイデアを共有することにより、新たなプロジェクトを創出していく拠点となります。

質の良い「種」が生まれ、そこに肥沃に耕された「土」「雨や肥料」を得ることで、新たな創造的な産業の花を咲かせ実をつける。そんな新産業への足がかりとなる有機的なプロジェクトの創出を、新しいICCのミッションとします。

ICCチーフコーディネーター 久保 俊哉

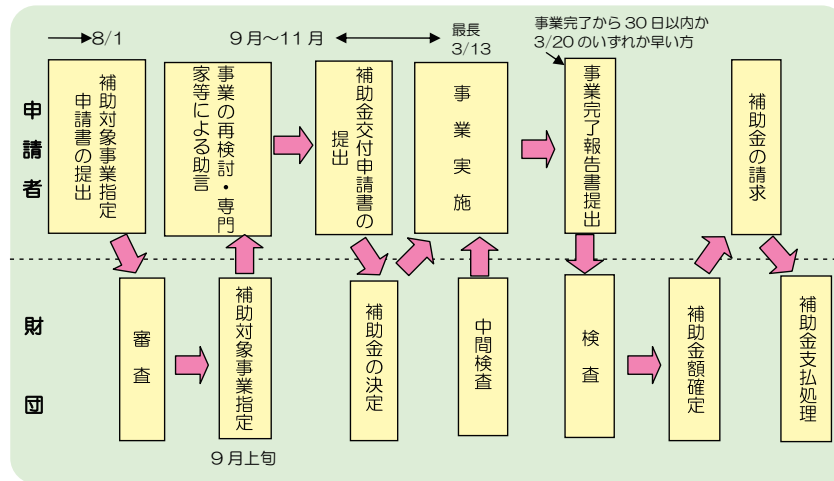


本補助金について

ICC（一般財団法人さっぽろ産業振興財団）では、道内の中小企業等が自社の経営課題を解決するために、クリエイターと連携しコンテンツの力で経営の活性化を目指す事業に対して、その費用の一部を補助する「コンテンツ活用促進事業費補助金」の公募を行い、平成26年度は、補助対象事業4件を採択いたしました。

実施内容

1 補助対象事業採択から補助金確定までのフロー（H26年度版）



①公募期間

平成26年5月30日～同年8月1日17:00まで

②補助対象事業指定申請書の提出

③審査・補助対象事業の採択

専門家による審査（必要に応じて面接）を行い結果を通知

④事業の再検討・専門家による助言

必要に応じて専門家等による助言を受けることが可能

⑤補助金交付申請書の提出

⑥補助金の決定

2 応募数と採択事業数

11件の応募のうち4件の事業を採択

3 「コンテンツ活用促進事業費補助金」公募説明会

日時：平成26年6月5日（木曜日） 参加人数：71名

内容：本補助金の概要説明と個別相談会を実施



4 関連セミナー

(1) コンテンツ活用促進セミナー ～知的財産のビジネス活用～

日時：平成26年7月3日（木曜日） 参加人数：58名

講師：佐川慎悟国際特許事務所 所長弁理士 佐川慎悟氏

内容：主に道内中小企業の知的財産保護と活用をサポートしている知的財産権の専門家・佐川慎悟弁理士を講師に迎え、「クリエイターにより創作された知的財産の上手なビジネス活用と権利保護」をテーマに様々な事例を紹介。



(2)食産業連携コンテンツセミナー「Food×Content」

日時：平成26年7月8日（火曜日）参加人数42名

講師：中小企業診断士事務所 オフィス後藤経営 代表 後藤直樹氏

内容：札幌商工会議所との併催。本補助金の概要説明の他、講師に中小企業診断士後藤直樹氏を迎え、「中小企業における製品の付加価値向上とマーケティングの重要性」について講演を行った。中小企業側がどのようにして経営課題を克服していけるのか、また、コンテンツはどのようなパワーをもっているのか、双方の立場で説明。



(3)コンテンツ活用促進セミナー～映像コンテンツにみるビジネスのヒント～

日時：平成26年11月20日（木曜日）参加人数43名

講師：映画プロデューサー河井真也氏、映画監督・脚本家 片岡翔氏

内容：第9回札幌国際短編映画祭最優秀北海道作品賞『狸詣り』の上映と常松英史監督によるプレゼンテーションの他、北海道セレクション作品監督によるプレゼンテーションを実施し、他産業企業に向けたアピールを行った。後半は、映画プロデューサー河井真也氏、映画監督・脚本家片岡翔氏を迎え、「これからの時代に求められる映像コンテンツとビジネスの可能性」等について講演を行った。



コンテンツ活用事例

札幌発スキンケア製品のブランディングおよび販促ツールの開発 7 - 8

株式会社 Savon de Siesta × クリエイター 株式会社ノイエカ / drop around

鈴木農園の無農薬米ファン拡大作戦 9 - 10

鈴木農園 × クリエイター 合同会社ことらら

オリジナル販促ツールの開発 11 - 12

株式会社 HandMade × クリエイター 株式会社アジアン・スマイルコム

北海道発オリジナル小豆ブランドの商品および
販促 PR ツールの開発 13 - 14

株式会社もりもと × クリエイター デザインアドミニストレーター引地幸生
キタイトデザイン
Commercial Studio Platinum

札幌発スキンケア製品のブランディング および販促ツールの開発

株式会社 Savon de Siesta

クリエイター 株式会社ノイエカ / drop around

企業情報 株式会社 Savon de Siesta

住所 〒060-0061 札幌市中央区南1条西12丁目4-182
TEL 011-206-1580
代表者名 附柴彩子
URL <http://at-siesta.com>
事業内容 ココロがホッとすることをコンセプトにした『肌にやさしいこと』を一番に考えたスキンケア製品の製造販売を行っている。

連携クリエイター

株式会社ノイエカ

住所 〒060-0032 札幌市中央区北2条東1丁目
2-10 北2条ビル
TEL 011-788-2464
代表 浜垣 靖幸
URL <http://www.neueka.com>
E-mail support@neueka.com

drop around

住所 〒060-0009 札幌市中央区北9条西20丁目2-7
TEL/FAX 011-612-8955
代表 青山 剛士
URL <http://www.droparound.com/>
E-mail info@droparound.com

事業内容

現状課題

2005年に個人事業としてスタートし2011年に株式会社を設立した『SAVON de SIESTA』と、2009年に直営店として創業した個人事業『Siesta Labo.』を、2014年に統合したが2つのブランドが存在している状況。商品パッケージ及びオンラインショップも2つあるため、運営コストが高く、ユーザーにも分かりにくい。また、創業時は類似の事業がほとんどなかったが、近年は自然派コスメ人気で市場が拡大し、類似製品が多数出ているため、差別化を図り今後の成長につながるためにも強固なブランディングを行う必要がある。

制作されたコンテンツ

ブランドの整理およびパッケージのリニューアル
ブランド戦略に基づくカタログ及び販促ツールの制作
オンラインショップの統合及びリニューアル



■おもてなし賞受賞



■パッケージデザイン



■「月刊シエスタ通信」(販促ツール)



■定番石鹸リニューアル



■カタログリニューアル



■WEBショップリニューアル



VOICE

主力製品とWEBショップのリニューアル、月刊誌とDMを制作し、ユーザーとのコミュニケーションを強化した。これにより、売上は向上し、WEBショップは6万店以上が出店するモールで上位9店に選ばれ『おもてなし賞』を受賞、「長年のショップ運営で培ったノウハウを、コンテンツや商材の見せ方にフル活用。欲しい商品を探しやすい親切な設計と、接客面の充実度が群を抜いている」と評価をいただくことができた。

審査員より

ブランドの上質な世界観をコンテンツで上手に表現。今後は、同業者との差別化を図ったさらなるコンテンツ戦略を期待します。

鈴木農園の無農薬米ファン拡大作戦

鈴木農園



クリエイター 合同会社こたら

企業情報 鈴木農園

住所 〒059-0272 北海道伊達市北黄金町 93
 TEL/FAX 0142-24-2792
 URL <http://www.suzuki-ricefarm.com>
 代表者名 鈴木 愛子
 事業内容 無農薬米の生産、無農薬酒米の生産、野菜類及び果物類等の生産に関する農業一般業務

連携クリエイター 合同会社こたら (社名変更：株式会社エンターリム)

住所 〒062-0025 札幌市豊平区月寒西 5 条 6 丁目 3-4-101
 Tel/Fax 011-598-0012
 代表者名 山本由紀夫
 URL <http://www.enterrim.com>
 E-mail info@enterrim.com

事業内容

現状課題

無農薬で化学肥料を使わない有機農法で安全な高品質の米を生産しているが、ほとんど広報をせず直売しているのが現状の課題であり、また、高付加価値商品としてのブランディングや直販の販路開拓の必要性も感じている。

制作されたコンテンツ

ウェブサイトの制作 (英仏対応)

プロモーション用リーフレット制作 (英仏対応)

米作り・酒造りの DVD 制作 (『母と子たちの無農薬米作り、酒造り』)

プロモーション用ミュージックビデオ (『大地の扉』二人静)



プロモーション用
ミュージックビデオ



VOICE

これまでの農作業の中では考えられなかった情報発信や PR を行うことが出来ました。特に、制作したオリジナルソングやムービーを視聴いただくライブ公演や試飲・試食パーティでは、参加者の共感を頂く機会が増えました。今までのお客様や酒蔵様にもホームページを見ていただく事で、確実にイメージアップになりました。新規の契約としては日本酒を作る蔵が増え合計2つになり焼酎の製品化も実現し、さらには、ホームページを見た新潟の業者様から無農薬米についての問い合わせがあり実売へとつながりました。インターネットやソフトコンテンツがこれ程の訴求効果があるとは知りませんでした。これからも鈴木農園のブランド作りや情報発信に努力したいと思います。

審査員より 地域に根差した「農園」に共感するファンを増やすことで、今後は「富良野」や「空知ワイナリー群」のような地域ブランドに発展する可能性を期待します。



ホームページ

オリジナル販促ツールの開発

株式会社 HandMade



クリエイター 株式会社アジアン・スマイルコム

企業情報 株式会社 HandMade

住所 〒004-0867 札幌市清田区北野7条4丁目11-20
TEL 011-888-1122
URL <http://www.11shokunin.com/>
代表者名 浦谷 幸史
事業内容 建築リフォーム業

連携クリエイター 株式会社アジアン・スマイルコム

住所 〒064-0810 札幌市中央区南10条西14丁目1-25
Tel 011-206-1857
代表者名 吉田 延明
URL <http://www.as-smile.com>
E-mail nob@as-smile.com

事業内容

現状課題

月ごとに新聞折り込みチラシの配布（市内60万枚程度）により、問い合わせのある新規件数は月間約240件（反響率0.04%）、うち営業活動により成約に結び付く件数が月間70件（成約率29.1%）。

一度、決定権者（ご主人）との面会まで予約が取れると成約率が上がるが、その前段階で、面会ができない場合も多く、この面会率向上が売り上げ拡大、事業拡大のカギである。

制作されたコンテンツ

営業スタッフの「見える名刺」として「映像名刺 DVD」を作成

自社会社案内 PV

キャラクター開発とプロモーション用動画



■「見える名刺」の映像

VOICE

本事業を通し「イーエくん」と名づけたイメージキャラクター（CGアニメ）を創り、彼が質問する形式で実写の営業マンとやり取りを行い普段の仕事ぶりや趣味を紹介する DVD を個人ごとに作製。

個性的な面々の紹介と合わせて明るく元気な社風を紹介。

営業ツールとしてお客様の認知度向上、イメージアップ戦略に役立てることができた。

今後は DVD による単発的なプロモーションから「イーエくん」をより活かした全社的な販売プロモーションを企画していきたい。

審査員より

コミュニケーションツールとしてコンテンツを活用。今後は、コミュニティ戦略を駆使した企業ブランドの確立を期待します。



■「見える名刺」

北海道発オリジナル小豆ブランドの商品および 販促 PR ツールの開発

株式会社 もりもと



クリエイター デザインアドミニストレーター引地幸生
キタイトデザイン / Commercial Studio Platinum

企業情報 株式会社もりもと

住所 〒066-0062 千歳市千代田町4丁目12-1
TEL 0123-23-4181
URL <http://www.haskapp.co.jp>
代表者名 森本 吉勝
事業内容 和洋菓子、パン製造販売業

連携クリエイター

デザインアドミニストレーター引地幸生
住所 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条8丁目
7-25 FRAT-A 01d 号室
TEL 011-876-8711
代表 引地 幸生
URL <http://www.yukimushi.com/design>
E-mail hikichi@yukimushi.com

キタイトデザイン

住所 〒060-0063 札幌市中央区南3条西3丁目14-2
FA-S3ビル4F
TEL 011-271-2050
代表 山本 健二
URL <http://kitaito.exblog.jp/>
E-mail kitaito@kne.biglobe.ne.jp

Commercial Studio Platinum

住所 〒060-0054 札幌市中央区南4条東5丁目2-2
TEL 011-222-4937
代表 池田 直俊
E-mail platinum@mtb.biglobe.ne.jp

事業内容

現状課題

道内では高い認知度があるが、海外は未開拓市場であり、僅かな経験を有するのみ。

また、商品開発は得意な一方、ブランド想像力、コミュニケーション戦略が弱い部分がある。

VOICE

このブランドブックは必要に迫られていながらも、二の足を踏んでいた案件でした。今回補助金を交付して頂き、一流のクリエイターとともに、通常制作するものより数段もグレードの高い「北海道の餡のブランドブック」を完成させることができました。長期に渡り色あせない内容に仕上がりが、様々な商談や講演会で有効活用されており。今後は中国語の翻訳も進め、「北海道の餡」をアピールしていきます。

審査員より

餡の価値や職人のこだわりを海外向けに紹介。今後は、体験型プロモーションと連動した相乗効果を期待します。

制作されたコンテンツ

オリジナル小豆ブランドに繋がる商品プラン

オリジナル小豆ブランド商品のデザイン開発

オリジナル小豆ブランド商品のコミュニケーション開発



■北海道高級最中
「きたるまん」



■「餡」
ブランドブック

